

(別紙)

令和6年度

事業計画書

社会福祉法人 あけの星会

目 次

1. 事業計画	2
2. 令和6年度収支見通し	2
3. 令和6年度基本方針	2
4. 令和6年度取り組むべき重要課題と予算編成における推進項目	3
5. 令和6年度収支予算の概要	4
6. 介護における基本計画	5
7. 施設行事計画	7
8. 誕生会開催計画	8
9. 嘱託医・協力病院	9
10. 各種委員会・職員研修計画	10
11. 避難訓練（事業継続計画に基づく訓練を含む）実施計画	11
12. 年間月別行事予定表	13

事業計画

1. 社会福祉法人を取り巻く状況

社会における高齢化は急速に進展し、要介護高齢者の増加や介護期間の長期化並びに核家族化の進行や介護家族の高齢化など課題が山積するなか、介護老人福祉施設及び短期入所事業所に対する需要は、ますます増大する状況にあります。

角田市においても高齢化の進行は顕著であり、令和5年12月31日現在の高齢化率は37.8%（人口26,917人（前年同月△345人））に対し、65歳以上の高齢者が10,166人（前年同月△3人）で、人口の3分の1以上が高齢者となっています。

このうち介護保険における要支援1から要介護5までの認定者が1,725人（前年同月+31人、65歳以上の高齢者の17.0%）おり、うち特別養護老人ホームの入所要件に該当する要介護3から5までの認定者が676人（前年同月+37人、65歳以上の高齢者の6.6%）おります。

このような中、当法人が運営する施設は、「共助共生」を基本理念として、職員一人ひとりが「キリストの愛の実践～隣人愛～」の精神を持ち、長期の入居者や短期の利用者の多様なニーズに沿った手厚い介護サービスが提供できるよう鋭意努力をしているところであります。

2. 令和6年度収支見通し

令和5年度における当初予算においては、事業活動収入を3億1,960万円、事業活動支出を3億1,960万円、事業活動収支を0万円と見込んでおりましたが、令和5年12月末時点における決算見込みは、事業活動収入が2億9,850万円、事業活動支出が2億9,790万円、事業活動収支が60万円となる見込みであります。

これを受けて令和6年度については、令和5年度の収支状況や4月からの介護報酬改定（改定率2%程度）、昨今の社会環境の変化に伴う物価高騰等の影響を勘案し、事業活動収入を3億520万円、事業活動支出を3億420万円、事業活動収支を100万円となる見込んでおり、年間目標利用率の達成及び不要不急の支出削減必須となります。

3. 令和6年度基本方針

～ 令和6年度 法人目標 「まわりを笑顔に！！」 ～

令和6年度は、法人全体の目標を「まわりを笑顔に！！」と掲げ、入居者や利用者の皆様がいつも笑顔で快適に充実した生活を送れるような施設づくりや介護サービス提供体制の構築を図るとともに、地域に根差した施設として地域に貢献できる事業を展開し、入居者や利用者、その家族はもちろん、職員も含めて、「この施設で生活できて良かった、ここで働けて良かった」と心から喜んでいただけるような施設運営に心がけてまいります。

- (1) 「共助共生」を基本理念に、「キリストの愛の実践～隣人愛～」に基づく真心を込めたケアを行います。
- (2) 利用者の意思を尊重し、尊厳をお守りします。
- (3) 生活の場として、明るく温かい施設にします。
- (4) 地域と連携し、ニーズに対応できる開かれた施設にします。
- (5) 職員の連携強化や介護技術等の研鑽に努め、介護体制を、より一層、充実・強化します。

4. 令和6年度取り組むべき重要課題と予算編成における推進項目

(1) 入居者や利用者の最適介護の追及

- ① 入居者や利用者のニーズと意思を尊重し、的確なケアプランに基づき、可能性の実現と生活の質の向上を図ります。
- ② 入居者や利用者には選ばれる質の高い介護サービスの提供に努めます。
- ③ 施設固有の基本介護の徹底を図ります。
- ④ 施設の持つ立地環境、建物、設備及び介護機器類を最大限に活用した介護サービスの一層の充実を図ります。

(2) 職員の育成と処遇改善

- ① 介護技術の向上と高齢者福祉介護の専門家としての自覚と誇りを持てる職員を育成します。
- ② 常に入居者や利用者に対する感謝の念を持ち、笑顔で誠実な対応を行います。
- ③ 組織の充実と職員のより良い処遇改善を図ります。
- ④ 職員間の融和を図り、明るく働きやすい職場づくりを行います。

(3) 施設の地域開放

- ① 新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、中断しているボランティアの受入れや高校・大学及び専門学校等の実習・見学・体験等について、国・県等関係機関の通知や世情の動きを見極めながら、受入れ等について検討を行い、施設への理解と連携強化を図ります。
- ② 入居者や利用者、その家族並びに地域、企業との協力を密にし、地域社会との交流を促進します。

(4) 地域社会貢献への取り組み

- ① 当法人が有する車椅子やベッドへの移乗、入浴の介助、食事の提供及び排泄時の対応等に関わる介護技術について、地域の公民館等を活用し普及・推進に努めます。
- ② 積極的に地域に情報を発信し、地域の声を受信するよう努めます。

(5) 施設の安全管理と防災意識の高揚

- ① 平成23年3月11日発生の東日本大震災や令和6年1月1日発生の能登半島地震、近年多発している台風・線状降水帯による風水害を教訓とし、また今後30年以内に発生が想定される宮城県沖地震や風水害に備え、地域や関係機関と一体となった防災訓練等の実施、「特別養護老人ホーム聖母の家非常災害対策マニュアル(兼)避難確保計画」及び「社会福祉法人あけの星会事業継続計画」に基づき、職員や利用者の安全の確保・防災意識の高揚を図り、不測の事態に迅速かつ的確な対応ができるよう努めます。

- ② 当法人の職員3名の防災士を中心として、職員一人ひとりが防災に対する認識を強く持ち、入居者の生命と財産を守るよう努めます。

(6) 適正な予算管理と安定運営

- ① 長期入所に係る定員(55人)の確保・維持が収入に大きく影響することから、入居申込者の状態把握を定期的に行い、空床発生時から10日以内を目途に新規者の受け入れを行うよう努めます。
- ② 限られた財源の中で、価格が高騰している介護用品や水道光熱費、燃料費等について複数の業者から見積書徴取等を行い、少しでも安価な購入方法を模索し、経費の削減に努めます。
- ③ 短期入所について、施設と利用者の懸け橋であるケアマネジャーと連携を密にし、極力、収入の減に繋がる利用キャンセルの防止に努めます。

5. 令和6年度収支予算の概要

令和6年度は、令和5年度の収支実績に基づき、令和6年4月の介護報酬改定(改定率2%程度)による収入の増や光熱費・物価の高騰による支出の増等を見込んで次のとおりとします。

(単位：千円)

区分	3年度		4年度		5年度		6年度
	予算	決算	予算	決算	予算	決算見込	当初予算
事業活動収入	300,710	289,793	305,090	272,332	319,600	298,500	305,200
事業活動支出	298,715	295,500	303,395	313,405	319,600	297,900	304,200
事業活動収支	1,995	△5,707	1,695	△41,073	0	600	1,000
主たる要因	—	長期利用者が伸びず	—	11・12月 コロナ感染 長期利用者 43人 職員21人	—	—	5年度実績等に基づき推計
職員数(人)	—	正職35 準職17 計52	—	正職35 準職18 計53	—	正職34 準職17 計51	正職34 準職17 計51

◇予算編成の根拠となる令和6年度目標利用率は次のとおりとします。

(単位：人、%)

区分	3年度 決算	4年度 決算	5年度		6年度 当初予算
			当初予算	決算見込	
聖母の家	定員	55	55	55	55
	年間延定員	20,075	20,075	20,130	20,130
	延利用者	18,733	17,927	19,727	19,690
	1日平均	51.3	49.1	54.0	53.8
	利用率	93.3	89.3	98.0	97.8
マリヤの家	定員	20	20	20	20
	年間延定員	7,300	7,300	7,320	7,320
	延利用者	6,002	5,525	6,222	6,021
	1日平均	16.4	15.1	17.0	16.5
	利用率	82.2	75.7	85.0	82.2

6. 介護における基本計画

特別養護老人ホーム聖母の家は、高齢者の有する能力に応じて可能な限り自立した日常生活を営むことができるよう介護基本計画を作成し、支援することを目標としています。

一方、小規模生活単位型指定短期入所生活介護事業所マリヤの家は、地域のニーズに応じた質の高いケアサービスを展開し、充実した在宅支援体制を確保することを目標としています。

(1) 身体のケア

① 食事

ア. 3食とも楽しい食事とするために、聖母の家は食堂や多目的ホールで、マリヤの家は共同生活室で、和気あいあいの中、一緒に食事をします。また、食堂等で食事ができない方は、個々人に合った生活の場での食事を提供します。

イ. 毎日の食事は、入居者・利用者のニーズに即して管理栄養士と委託業者が協議し、手作りによる家庭料理を提供します。

ウ. 施設職員と委託業者の職員が出席する給食委員会を隔月1回開催し、入居者や利用者に喜んでいただけるメニューや食材の探究、安全かつ円滑な食事提供に向けての協議・検討を行います。

② 入浴

ア. 入居者の身体状況に合わせ、「一般浴」、ストレッチャーやリフトを用いて入浴する「機械浴」及び1人用の浴槽を使い入浴補助具等を利用し入浴する「個浴」により快適な入浴を提供します。

聖母の家は、「一般浴」又は「機械浴」により週2回の入浴を提供し、マリヤの家は、「機械浴」又は「個浴」により適時入浴を提供します。

また、体調により入浴できない入居者は清拭を行い、清潔を保つようにします。

イ. 入浴は、入居者の身体状況を観察する重要な機会でもあるので、担当職員2名が身体に異常がないかどうかを注視し、異常がある場合は、「入浴時身体観察表」に記録するとともに、看護師と連携のうえ適切な治療を行う等即時対応する体制を強化します。

③ 排泄

ア. 自力、車イス及び歩行器により移動可能な入居者・利用者は、寝たきりにならないよう残存機能維持訓練を兼ねて、極力トイレへ誘導することとします。ただし、夜間は、転倒等の事故を防止するため、ベッドサイドにポータブルトイレを設置し対応します。

イ. ポータブルトイレは各人専用とし、介護職員等が清掃・消毒を行い快適に使用できるようにします。

ウ. おむつは、個々人の身体的特徴と利用目的に合った製品を使用し、清潔保持を第一とします。

(2) 心のケア

新型コロナウイルス感染症やインフルエンザの感染防止のため、クラブ活動やボラ

ンティアによる慰問等については、終息までの間、実施を見送らざるを得ないため、季節ごとの行事やガラス越しでの家族との面会等を可能な範囲で実施し、日常生活が単調にならないよう努めます。

① クラブ活動の充実

民謡、笑いヨガ等入居者の趣味を活かしたクラブ活動を開催し、安らぎや励み、生きがいとなる行事の開催に努めます。

② ボランティアの協力

施設は、諸団体・個人による舞踊・合唱・奉仕作業等を中心に、多くのボランティアに支えられているので、今後とも協力体制の強化に努めます。

③ 宗教クラブの開催

聖母の家のクラブ活動の一環として、聖母の家の東側に増設した聖母ホールにおいて、毎月1回、カトリックの神父によるミサや講話を開催し、入居者の憩いの場・心のケアの場となるよう努めます。

④ 自然とのふれあい

野外での自然とのふれあいは、居室生活が中心になりがちな入居者の「心のケア」につながるため、施設の遊歩道や中庭芝生での散策、近隣へのドライブ等の実施に努めます。

⑤ 家族や知人の来訪の推進

入居者の何よりの楽しみは、家族や知人の来訪です。来訪者とのコミュニケーションを図ることにより、入居者の安らぎ・憩いにつながり、ひいては施設のPRや入居促進にもつながるので、積極的な働きかけに努めます。

(3) 感染症対策と居住環境の整備

① 感染症対策

感染の流行が繰り返される「新型コロナウイルス感染症」について、国及び宮城県から発出される通知等に基づき、施設への持ち込みを阻止するため、「出勤時の体温測定」や「手洗い・マスクの着用」、自覚症状出現時の検査を徹底させます。

また、年末から3月にかけて流行するインフルエンザやノロウイルス等は罹患すると生命の危機も危惧されることから、宮城県から発信される「感染症発生動向調査週報」を常に把握し、施設に設置の「感染症対策委員会」を中心として職員に「手洗い・うがい・マスクの着用」を徹底させ、施設への持ち込みを阻止するとともに、居室の温度・湿度の管理を徹底し、蔓延防止に努めます。

② 快適な居住環境の保持

年間を通じ入居者の快適な居住環境を保つため、エアコンや除湿器・加湿器・空気清浄器による適正な温度・湿度の管理に努めています。特に冬期間は適正な湿度を保持し、施設を挙げて感染症の感染防止に取り組みます。

7. 施設行事計画

月	行事名	開催日	場 所	内 容
4	お花見週間	未定（運営委員 会で決定）	桜の名所	数日に分け少人数グループで 桜の名所をドライブ・散策 し、春爛漫を楽しむ。
5	創立記念日	5月25日 （土）開催予定 ※新型コロナウイルス等の感染動向 により、開催を9 月に延期する可能 性あり。	聖母の家	施設開設34周年の創立記念 式典を催す。
6	新緑週間	未定（運営委員 会で決定）	市内	数日に分け少人数グループで 市内の観光名所をドライブ・ 散策し、新緑に親しむ。
7	七夕まつり	7月5日（金） 開催予定	聖母の家 マリヤの家	七夕の伝統的な行事を楽し み、入居者の活気ある生活に つなげる。
9	敬老会	9月7日（土） 開催予定 ※コロナ禍等によ り「創立記念式 典」を同時開催す る可能性あり。	聖母の家	入居者の長寿を祝い、末永い 健康を祈る。
9	芋煮会	9月26日 （木）開催予定	聖母の家 中庭	地元の豊かな食材を使用した 芋煮汁に舌鼓を打ち、豊穡の 秋に親しむ。
12	クリスマス会	12月25日 （水）開催予定	聖母の家多 目的ホール	イエス・キリストの誕生を祝 い、クリスマスを楽しむ。
1	新春餅つき	1月6日（月） 開催予定	聖母の家多 目的ホール	新春を祝い、お正月気分を味 わうとともに、杵と臼を使い 昔の餅つきを懐かしむ。
2	節分豆まき	2月3日（月） 開催予定	聖母の家多 目的ホール	入居者の無病息災を願い、健 康と一層の長寿を祈る。
3	ひなまつり	3月3日（月） 開催予定	聖母の家食 堂	ひなまつりを通じて、女の子 の成長を祝った思い出と、早 春の喜びを感じ、健康を祈 る。

注：新型コロナウイルス感染症等の感染防止のため、感染の状況を見極め行事を実施することとします。

8. 誕生会開催計画

1. 目的

入居者の誕生を他の入居者や職員全員で祝福し、誕生日を契機に生きる喜びと健康のありがたさを感じていただくとともに、より一層の長寿を願い、入居者相互の心の交流の場として開催するものです。

2. 日時

入居者の誕生日当日の午後に開催します。

3. 場所

聖母の家 食堂・多目的ホール等

4. 内容

個々人に合わせた色紙を贈呈し、誕生者から一言メッセージをいただいた後、記念写真を撮り、他の入居者や職員からのお祝いの言葉や歌等で盛大にお祝いします。

5. 費用概算

年17,000円

【内訳】色紙、誕生祝いケーキ代

・長期入居者 1人当たり300円×55名＝16,500円
≒17,000円

6. その他

当日の会場は、誕生会に相応しい装飾を施します。

9. 嘱託医・協力病院

1. 内科医

毎週水曜日又は土曜日 午前
仙南病院 櫛田 正男 先生

2. 精神科医

毎月第3木曜日 午前
松山 多佳子 先生

3. 歯科医

月1回 不定期
氏家歯科医院 氏家 和子 先生

4. 協力病院

(1) 仙南病院（角田市）

平成26年11月1日 協定締結

(2) みやぎ県南中核病院（大河原町）

平成24年10月1日 協定締結

10. 各種委員会・職員研修計画

月	委員会	職員研修（内部研修）	
		研修名	研修内容
4	運営委員会 事故対策委員会 感染症対策委員会 褥瘡予防委員会 喀痰吸引等安全委員会 給食委員会	災害対策研修	施設災害対策マニュアルや事業継続計画（BCP）を踏まえて、具体的な対応や避難訓練の実施、人命救助技術の習得
5	運営委員会 事故対策委員会 身体拘束廃止委員会 虐待防止委員会 喀痰吸引等安全委員会	食中毒予防研修	夏場に多く発生する病原性大腸菌やサルモネラ菌等「細菌性食中毒」の罹患予防対策
6	運営委員会 事故対策委員会 感染症対策委員会 褥瘡予防委員会 給食委員会	感染症（BCPを含む）や褥瘡予防研修	入居者・利用者の感染予防や蔓延防止等BCPを踏まえての対策、褥瘡の早期発見・予防の対策
7	運営委員会 事故対策委員会 感染症対策委員会 褥瘡予防委員会 喀痰吸引等安全委員会	施設事故対策・身体拘束廃止・虐待防止研修	施設内での事故防止、身体拘束廃止、虐待防止の対策
8	運営委員会 事故対策委員会 身体拘束廃止委員会 虐待防止委員会 喀痰吸引等安全委員会 給食委員会	機能訓練研修	入居者・利用者の身体機能維持向上対策
9	運営委員会 事故対策委員会 感染症対策委員会 褥瘡予防委員会 給食委員会	災害対策（BCPを含む）研修	聖母の家災害対策マニュアルやBCPを踏まえての具体的な対応、避難訓練の実施や人命救助技術の習得
10	運営委員会 事故対策委員会 感染症対策委員会 褥瘡予防委員会 喀痰吸引等安全委員会 給食委員会	食中毒予防研修	冬場に多く発生するノロウイルス等「ウイルス性食中毒」の感染予防対策
11	運営委員会 事故対策委員会 身体拘束廃止委員会 虐待防止委員会 喀痰吸引等安全委員会	感染症・褥瘡予防研修	新型コロナウイルス・インフルエンザ等感染症の予防・感染防止対策、褥瘡の早期発見・予防の対策
12	運営委員会 事故対策委員会 感染症対策委員会 褥瘡予防委員会 給食委員会	事故対策・身体拘束廃止・虐待防止研修	施設内での事故防止、身体拘束廃止、虐待防止の対策、高齢者の権利擁護の知識習得
1	運営委員会 事故対策委員会 感染症対策委員会 褥瘡予防委員会 喀痰吸引等安全委員会	食事介助研修	食事介助技術や介助時の留意点
2	運営委員会 事故対策委員会 身体拘束廃止委員会 虐待防止委員会 喀痰吸引等安全委員会 給食委員会	コンプライアンス研修	法令の遵守、違反の例示、自己チェック
3	運営委員会 事故対策委員会 感染症対策委員会 褥瘡予防委員会 給食委員会	認知症介護研修	認知症者の介護知識、食事介助技術、介助時の留意点

注）内部研修の内容は、各委員会において検討・企画する。また、外部研修は積極的に参加し介護技術等のスキルアップを図る。

1 1. 避難訓練（事業継続計画に基づく訓練を含む）実施計画

<第1回>

1. 日 時 5月10日（予定） 午前
2. 目 的 日頃の火災予防に対する意識をより一層喚起するとともに、適切な防火管理体制を構築することにより、火災ゼロを目指します。
併せて、避難訓練を実施し、人命救助を最優先とした行動を身に付けるようにします。
3. 場 所 聖母の家、マリヤの家（ひかりのいえを含む。）
4. 訓練内容 夜間の火災を想定した実践的、総合的な訓練
5. 避難誘導 聖母の家の某所（当日、出火場所を特定）からの出火により、夜勤者2名、宿直者1名の計3名で入居者を避難させます。
マリヤの家（ひかりのいえを含む。）も某所（当日、出火場所を特定）からの出火により、夜勤者2名、聖母の家宿直者1名の計3名で利用者を避難させます。
6. 訓練種別 消火訓練、通報訓練、避難訓練
7. 実地訓練 避難終了後に、放水訓練・消火器使用訓練
8. 指 導 角田消防署

<第2回>

1. 日 時 6月7日（予定） 午前
2. 目 的 入居者・利用者及び職員に、火災の恐ろしさと防災に対する認識を徹底し、さらに地震の場合の心構えを含め有事に備えるようにします。
3. 場 所 聖母の家
4. 訓練種別 防災を中心とした講話（角田消防署）

<第3回>

1. 日 時 7月12日（予定） 午前
2. 目 的 震災による停電を想定し、非常電源の確保と供給方法等について体験・習得し、災害時に事業が停滞せず円滑に遂行できるようにします。
3. 場 所 聖母の家、マリヤの家
4. 訓練種別 電源・照明・情報等確保訓練
5. 実施訓練 非常用発電機の搬送・操作、配線、照明の確保、パソコン等の動作確認、懐中電灯・ラジオ等機器の確認

<第4回>

1. 日 時 10月11日（予定） 午前
2. 目 的 震災による断水を想定し、飲料水の確保とトイレの使用方法、食事の提供等について体験・習得し、災害時に事業が停滞せず円滑に遂行できるようにします。

- 3. 場 所 聖母の家、マリヤの家
- 4. 訓練種別 飲料水の確保等訓練
- 5. 実施訓練 飲料水の保管・確保、トイレの使用方法、食事の提供方法等の確認

<第5回>

- 1. 日 時 11月8日(予定) 午前
- 2. 目 的 冬季に向けて火気を使う機会が多くなるため、火災予防に関する注意を一段と喚起するとともに、地域の方々から協力・支援をいただき、連携して適切な防火管理体制の確立と、入居者・利用者並びに職員の共通理解を図るようにします。
また、火災防止、災害時における人命損傷事故及び財産損失の絶無を目指します。
- 3. 場 所 聖母の家、マリヤの家(ひかりのいえを含む。)
- 4. 訓練内容 日中の火災を想定した実践的、総合的な訓練
- 5. 避難誘導 聖母の家の某所からの出火により、日勤者全員で入居者を避難させます。
マリヤの家(ひかりのいえを含む。)も某所からの出火により、日勤者全員で利用者を避難させます。
- 6. 訓練種別 消火訓練、通報訓練、避難訓練
- 7. 実地訓練 避難終了後に、放水訓練・消火器使用訓練
- 8. 指 導 角田消防署